

一宮市
博物館
だより

No.28 2001.3



良全筆白衣観音図（重要文化財・妙興寺蔵）

会のご案内

平成十三年度春季企画展

「妙興寺の絵画名宝展」

南北朝時代の貞和四年（一二三四）に創建された妙興報恩禪寺（通称妙興寺）は、文和二年（一二三三）足利二代將軍義詮により祈願所とされ、同年北朝第四代後光厳天皇から「國中無双禪刹」の勅額を賜り、延文元年（一三五六）に勅願寺（天皇自らの命により国家鎮護・玉体安穩を祈願した寺）となった。以来、尾張国随一の巨刹として知られ、戦国時代末には豊臣家の、そして江戸時代には尾張徳川家の庇護を受けながら今日に至る。境内地は、南北朝時代創建の面影を今も色濃く残しており、愛知県指定史跡となっている。幾たびもの戦禍や荒廃の危機を乗り越え、多くの人々によって今日まで守り伝えられたその歴史と文化財は、一寺院のことに留まるものではなく、一宮市の、ひいては尾張の歴史を物語るものといえる。

全国でも屈指の質量を誇る尾張中世文書五四九通（重要文化財）をはじめ数多くの宝物が伝えられているが、現在、一宮市内所在の国・県・市指定文化財一八八件のうち六四件を占め、特に重要文化財は一五件の内九件までが妙興寺の所蔵であり、まさに文化財の宝庫といえる。中でも絵画遺品はそのうちの多くを占め、指定物件三一件のほかにも貴重な作品が数多く架蔵されている。そのほとんどが寄進によるものであり、かつて信仰の対象と

十六羅漢図・第三幅（重要文化財）



道仏二教諸尊図・第四幅（重要文化財）

して崇められた仏画の類はもとより、禪刹ならではの雅趣をあらわす水墨画、高僧の遺墨、江戸期の文人画など、内容は実に多岐にわたっている。そして、それらの作品は、皆それぞれの由緒を持ち、妙興寺へ伝来したドラマがある。今にしてみれば、それらは皆、六五〇年にわたる寺の歴史を物語る貴重な資料なのである。

本展は、妙興寺所蔵の絵画のうち仏画と水墨画を中心に鑑賞し、室町時代から江戸時代へと連なる禪の美術を辿ってみようとするものである。その中から一つの逸話をご紹介します。

中国元時代の作品である重要文化財「十六羅漢図」および「道仏二教諸尊図」は、尾張藩剣術指南の尾張柳生家初代柳生兵庫助利厳が寛永八年（一六三二）に修補して妙興寺へ寄進したものである（表装の裏書による）。利厳の祖父石舟斎宗厳は柳生新陰流の創始者として著名だが、その師上泉伊勢守信綱（新陰流の開祖）は、上野国大胡城を武田信玄に奪われた後、剣の道を広めるため諸国を歩いた。尾張柳生家の伝承では、清洲から伊勢路への途中、妙興寺あたりへさしかかった時、乱心者が子供をさらって妙興寺の納屋に立てこもる事件に遭遇した信綱は、僧侶に変装して握り飯二つにて乱心者を取り押さえたとする。そして妙興寺に滞在して禪の修業に励んだという。その後、信綱は弟子となった宗厳に、素手で敵に対し剣を奪って敵を制する術を与え、印可状を授けた。いわゆる柳生無刀取りの発祥である。今、寺には「上泉伊勢守信綱居士修道跡」の碑が立つ。「十六羅漢図」は平成四年から七年

展覧会情報

- ◆主催：一宮市博物館
- ◆会期：平成13年4月28日（土）～5月27日（日）
- ◆休館日：5月1日・7日・14日・21日
- ◆開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- ◆観覧料：一般 200円、高・大生 100円、小・中生 50円
（常設展を含む／20名以上の団体は2割引）
- ※第2・第4土曜日は小中学生無料。満65歳以上で、一宮市発行の「老人医療受給者証」あるいは「シルバー優待証明カード」持参の方は無料。
- ◆展示解説：5月5日（土）・5月19日（土）いずれも午後1時30分から展覧会場にて、当館学芸員が解説します。

度にかけて、「道仏二教諸尊図」は平成十一年度の二ヶ年をかけて修復された際、裏書は本作品から剥がされ、参考資料として分けられることとなった。しかし、本作品が剣法者の鋭い眼識によって見出され、取立て妙興寺をその安住地に選んだことは未永く記憶されるべきであろう。

（毛受英彦）

2001年 展覧

夏季企画展

市制八〇周年回顧展

七月二十二日～九月九日

現在の一宮市の元となる一宮村は明治期に一色村を吸収合併して一宮町となり、大正十年九月一日に市制を施行。その後、昭和期に葉栗村・西成村・丹陽村・浅井町・北方村・大和町・今伊勢町・奥町・萩原町・千秋村との合併により今日に至る。

この展覧会では、一宮市の八十年を振り返り、その発展の歴史を見つめ直す機会とする。



市制祝賀のパレードをみる人々
(杉本悦郎氏撮影)



特別展

銅鐸から描く弥生社会

埋められた銅鐸の謎

十月六日～十一月四日

弥生時代を雄弁に語る遺物に銅鐸がある。尾張平野では、弥生時代以降遺跡が増加し、当時の生産力の高さがうかがえるが、その一つの証左として、一九九六年に一宮市大和町荻安賀の八王子遺跡から、全国的にも珍しい、逆さに埋納された銅鐸が出土した。

今回の展示では、各地から出土した銅鐸を中心に展示し、銅鐸がなぜ埋められたのかを考えながら、弥生時代を語るものである。



八王子遺跡出土の銅鐸

特別展開連行事

フォーラム

「新しい弥生時代像を求めて」

十月十三日(土)

シンポジウムに先だつて、濃尾平野の弥生時代社会を、若手の研究者五人を集め、最新情報を紹介しながら討論する。そして、新しい弥生時代像を提示する。

収蔵品展

くらしの道具

今と昔

一月五日～二月二十四日

歴史を学び始める小学校三年生を主な対象とした展示。明治・大正・昭和にかけての暮らしの様子を、民俗資料を中心に展示する。

作品展

手つむぎ・染め・織り展

三月三日～三月十七日

平成十三年度繊維講座受講生・尾張もめん伝承会員の作品を展示する。

シンポジウム

「銅鐸から描く弥生社会」

十月十四日(日)

銅鐸という弥生時代に特徴的な資料を中心に据え、弥生社会の構造に迫ろうとするシンポジウム。

「一宮探検」2

浅井古墳群

一宮市浅井の近辺には五十基近くの古墳があり、古来「四十八塚」と呼ばれていました。現在、県指定史跡となっている岩塚古墳・毛無塚古墳・桃塚古墳・愛宕塚古墳・小塞神社古墳の五基が残っています。いずれも今伊勢古墳群よりも後、古墳時代後期の築造と考えられます。浅井古墳群は昭和三十三年から三ヶ年に渡って発掘調査が行われ、その詳細は「新編一宮市史」資料編3に報告され、また出土品は一宮市博物館に展示されています。



岩塚古墳

2000年 回想

春季企画展

二〇世紀写真真展

五月二十七日～六月二十五日

総観覧者数は一四五五名。
会期中には展示説明会を二度行いました。その折には、観覧者の方にも思い出を語っていただけました。「印象に残った写真」と「印象に残った二〇世紀の出来事」のアンケート結果については、前号のたよりに掲載しました。



企画展

八王子遺跡

七月二十二日～八月三十一日

大和町荻安賀にある八王子遺跡から出土した、弥生時代の銅鐸、古墳時代の井泉の祭祀の場から出土した土器群をはじめとして、弥生時代から古墳時代を経て、古代、中世にいたる出土品あわせて三〇〇点余りを展示しました。

また、七月三十日(日)には、「ここまでわかった!! 八王子遺跡」のテーマで、実際に調査を担当され、出土遺物を整理して見える(財)愛知県教育センター埋蔵文化財センターの調査研究員・樋上昇さんを招いて講演会を開催しました。一〇〇名を越える方の参加があり、八王子遺跡から出土したものの意味、大切さを再認識されたものと思います。



特別展

寛忠治展

十月二十一日～十一月二十三日

「寛忠治」展は、去る十一月二十三日に無事閉幕しました。一年半前に開催された刈谷市美術館での全貌のほかは、九二歳になる現在までほとんど表舞台に登場することのなかった画家の展覧会ということで、美術関係者をはじめ報道機関の方々にも大きな反響を呼び、多くの皆様からご好評を頂き、四二七七名のご来館がありました。開会式は、好天にも恵まれ、寛氏のご出席を得て、心温まるものとなりました。ご臨席の方々には、仁王像のような気迫あふれる自画像を描いた作者とはいったいどんな巨躯の人かと想像していたようですが、当日現れたのは、意に反して穏やかな好々爺であったことに驚きを隠せないようでした。まさに、芸術のもつ意外性を再認識した機会でもありました。今回特に顕著であったのは、若いお客様が多かったことです。ある若者は、二時間も鑑賞し続け、こんなに感激したことは初めてだと語っていました。その熱き心をこそ大切にしたいものです。



収蔵品展

くらしの道具

— 今と昔 —

一月六日～二月十八日

今回で一〇回目となる、歴史を学び始める小学校三年生を主な対象とした展覧会。今回は日曜日に、
○1/7(日) コガシとセンバヤキをつくって食べよう!
う!

○1/14(日) ネジリカゴをつくろう!
○1/21(日) ヨモギモチをつくって食べよう!
○2/11(日) 昔の道具をつかってみよう!

の四つの講座も開催しました。
ボランティアのみなさんにもお手伝いいただき、多くの小学生で賑わいました。



ボランティアの説明を聞きながら、センバヤキを食べる

作品展

手つむぎ・染め・織り展

三月三日～三月十八日



博物館ニュース



写真1 民俗資料に登録番号を記入する



写真2 拓本に挑戦！



写真3 岩塚古墳で記念撮影

子どものための尾張歴史講座

この講座は、学校という場では得られない歴史観や地域文化に対する子どもたちの関心や興味を引き出し、画一化しつつある社会の中で、ふるさとを愛し地域性の比較ができる思考力を持った子どもたちを育てる支援をする第一歩として、企画したものです。

- ◇7/29 (土) 博物館へ行こう！
～博物館探検～ (写真1)
- ◇8/5 (土) 繊維のまち～一宮
- ◇8/12 (土) 川とくらし
- ◇8/19 (土) 考古学入門 (写真2)
- ◇8/26 (土) いちのみや！遺跡めぐり (写真3)

尾張平野を語る5 ～馬見塚遺跡への系譜～

一宮市内でもっとも古くから知られている遺跡の1つである馬見塚遺跡にスポットを当て、尾張地方における縄文時代晩期の遺跡の特徴を明らかにしました。

- ◇12/3 「東海地方、縄文のクニ—馬見塚遺跡の見方・とらえ方—」
文化庁文化財保護部記念物課主任文化財調査官 岡村道雄氏
- ◇12/10 「葬られた縄文人—馬見塚遺跡調査史と土器棺—」
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室主事 野口哲也氏
- ◇12/17 「馬見塚遺跡の壺」 田原本町教育委員会文化財保存課技師 豆谷和之氏
- ◇12/24 「縄文の道具箱」 (財) 愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター調査研究員 永井宏幸氏

博物館講座

「はにわをつくる」

二月三日、四日、十八日に、小学校高学年児童とその親を対象にして実施しました。

今回の参加者は親子一〇組一〇名のみなさんで、それぞれ親子で相談しながら、粘土を使って、様々な形のはにわを制作しました。その後、博物館で約二週間乾燥させたあと、隣接する妙興寺の境内で野焼き作業を実施しました。野焼きの日は、小春日の日でしたが、全員で協力して土器を焼き上げました。今回は、粘土を代えたこともあって、かなりの数のはにわが割れてしまいました。これは、焼成用の燃料ではにわを覆うときに、十分覆いきれなかったために温度がじつじつ上がりあがらず、火を付けると同時に温度が急上昇したために、焼き初めの段階で割れたものと思われまます。

今回は、この反省のもとに、実施したいと思えます。

また、野焼きの合間に、シイの実を使ったクッキー作り、台付甕による赤米の炊飯などを行い、試食しましたが、昔の人の生活を体験できた喜びの感想が聞かれました。



土器をつくる



野焼き前

文化財解説ボランティア養成講座開催

文化財解説ボランティア養成講座開催

文化財は過去の歴史や遠い祖先の生活を身近なものとして感じさせてくれる貴重な文化遺産です。また、文化財に対する関心は高まっており、町づくり、地域づくりの核として文化財を生かそうという動向もあります。こうした状況下で、文化財保護施策のより一層の充実を図っていくためには、市民のみなさんの中に文化財愛護意識の醸成を図る必要があります。こうした観点から、市内に所在する文化財全般についての知識・理解を深めながら、より高度な解説能力を醸成し、個々の文化財に関する解説ができるような人材育成をめざして、この講座を開催しました。募集定員二〇名に対して、三九名の方の応募があり、抽選で受講者を決定させていただきました。ご参加いただきましたが、みなさんの関心の高さがうかがわれます。

平成十二年度は、文化財に関する入門編として、博物館の学芸員の話を中心に、文化財についての学習を深めました。継続して平成十三年度も受講していただき、十一月には終了する予定で、将来的には、要望があれば、現地でその文化財について解説していただくなど活用を図っていきたく思っています。

車塚古墳の測量調査

平成12年度博物館実習の1カリキュラムとして、車塚古墳の測量調査を実施したので、以下その成果を報告する。

車塚古墳は、市内今伊勢町本神戸字日久井 472番地に所在する古墳で、一宮市指定史跡となっている。従前、発掘調査、測量調査は実施されておらず、前方後円墳とも円墳ともいわれていた。今般、この古墳が、所蔵者の方から市に寄贈されたこともあり、景観整備とあわせて測量調査を行ったものである。

車塚古墳の所在する今伊勢町周辺には、かつては10基以上の古墳が存在したといわれるが、車塚古墳は、その中でも、前方後円墳である可能性のあること、鏡をはじめとする副葬品がはっきりしていることなどから、市内でも注目すべき古墳の一つである。築造年代は、5世紀前半代と考えられている。

江戸時代に墳丘が崩れ、鏡3面、玉類、鉄製品などの遺物の出土したことが知られる。この経緯の詳細については、『新編一宮市史本文編上』（岩野1977）を参照されたい。

車塚古墳の現況は、後円部東半が削平されており、また、後円部北側は道路及び駐車場の設置にともない、土が盛り上げられている。前方部と推定される部分も、宅地化により10mほどで断ち切られている。また、南西部斜面も庭として利用されて平坦になっており、往時の景観を保っているとは言い難い状況である。そして、道路面の標高が9m前後であり、墳頂部との比高は現況で5.3mを図る。

今回の測量調査の結果、前方部が南に伸びる前方後円墳であることが確認できた。

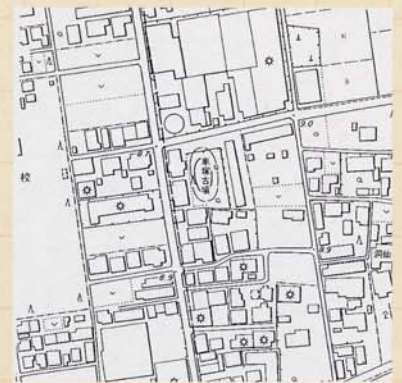
まず、標高10mのコンターが墳丘裾部のラインとすれば、後円部径32m前後との復原が可能になる。また、南東部に残存する傾斜（標高10mから11.5mのコンター）が、前方部の名残だと考えれば、前方部が南に伸びることとなる。こうした観点から、墳丘の規模を復原すると、主軸がほぼ南北で、現況で高さ4.3m、墳長60mを越える前方後円墳との推定が可能となろう。そして北側の駐車場・道路部分と西側の宅地部分には、周濠が埋没して残存している可能性が指摘でき、周濠部を含めると、従前いわれているように、70m規模の大きさの前方後円墳と推定できよう。

一宮市周辺の尾張平野・犬山扇状地末端部から沖積低地部への遷移帯で墳長60mを越える前方後円墳は、確認されておらず貴重な遺例と言うことができる。

南山大学の伊藤秋男氏は、前方部が東に伸びる可能性を地籍図から復原し推定しておられるが（伊藤秋男2000）、地籍図の方位に誤りがあり、地籍図上は北に伸びることになるが、1999年2月に実施した北側の工場跡地（現在は住宅地）の試掘調査では、標高7.6m前後まで、均一的な中世の堆積層であり、層中からは山茶碗の小片を検出している。さらにその下層は、地山と考えられる灰黄色砂層であった。こうしたことから、前方部が北へ伸びる可能性は無いものと考えられる。（土本典生）



車塚古墳近景



車塚古墳位置図



博物館実習での作業風景

（参考文献）

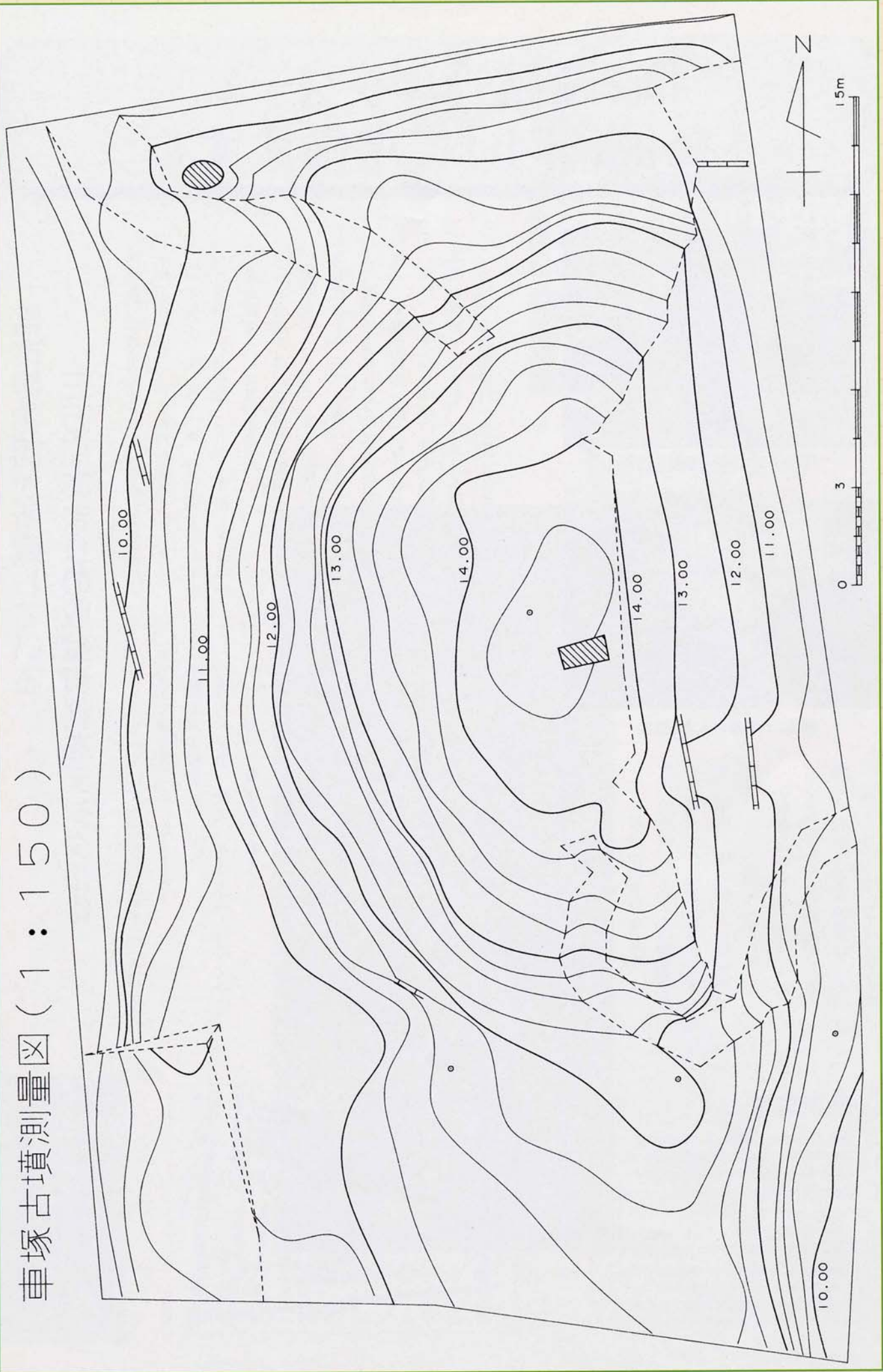
- ・岩野見司 1977「古墳時代」『新編一宮市史 本文編上』一宮市
- ・伊藤秋男 2000「愛知県尾張低地帯における古墳の分析とその現況（Ⅰ）」『味美二子山古墳の時代』春日井市教育委員会

■測量調査参加者

8月23/24日：浅野友佳理、岡田仁美、斉藤弥生、森瀬由美子（実習生）

11月28/29日：岡田真知子、岡部貴代、木村知誉子、土本幸子（補足調査）

車塚古墳測量図(1:150)



「収藏品管理システム」 公開に向けて準備すすむ

一宮市博物館が所蔵している

三万点あまりの収藏品資料をデジタル化

博物館には通常展示されている資料のほかに、収蔵庫で保管されている資料が数多くあります。常設展の展示替えや企画展・特別展を通してそうした資料の公開を行っています。ところが、とうてい全てを公開するには及びません。

そこで当館では収藏品資料の情報をデジタル化し、来館者がコンピュータで閲覧できるように「収藏品管理システム」を導入します。同システムによってできるだけ多くの収藏品資料を知っていただき、生涯学習の一助にしたいと考えています。現在、できるだけ早い時期の稼動を目指して準備を進めています。システム稼動時には約一〇〇〇点の収藏品資料が公開される予定です。



デジタルカメラで収藏品の撮影



撮影した画像の入力と修整

本システムでは、当館の収藏品を以下の三つの方法で検索することができます。

- ・分野からの検索
考古・民俗・歴史・美術工芸・行政文書の五分野から検索ができます。
- ・キーワードによる検索
キーワードや資料名称の一部を入力することで、関連のある資料が検索できます。
- ・こども用メニューからの検索
資料の画像が閲覧できるので、その画像から資料を選ぶことができます。

本システムと併せてビデオ「一宮の歴史」と、「一宮の文化財めぐり」というシステムも稼動します。「一宮の歴史」は市の歴史や文化に関わる二十三タイトルの映像が観賞できます。「一宮の文化財めぐり」は同名の冊子を基本に作製されたシステムで、市内の国・県・市指定の文化財が検索・閲覧できます。

「収藏品管理システム」「一宮の文化財めぐり」の両者とも、画面で閲覧できる情報は、求めに応じて受付で印刷が可能です。

利用案内

名鉄名古屋本線【妙興寺】駅下車徒歩7分
〒491-0922 一宮市大和町妙興寺2390
TEL 0586-46-3215 FAX 0586-46-3216

【観覧料】(常設展・聴講料含む・特別展の場合は別途定める。)
一般=200円(160円) 高・大生=100円(80円)
小中生=50円(40円) * ()は20人以上の団体料金

【休館日】毎週月曜日、休日の翌日、年末年始

【開館時間】午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)

※第2・4土曜日は小・中学生無料。

※65歳以上で、一宮市発行の「老人医療受給者証」
あるいは「シルバー優待証明カード」持参の方は無料。



一宮市博物館だより 第28号
発行日……2001年3月31日
編集・発行……一宮市博物館
印刷……サンメッセ株式会社